



# 室内原状回復・遺品整理の「特殊清掃員」

# 孤立死

# 気付いてあげて

「特殊清掃」という仕事がある。事件や孤立死で時間が経過してから遺体が見つかった場合、室内を清掃・消毒して原状回復し、遺品整理を請け負う業務だ。大阪では昨年、「おなかいっぱい食べさせてあげられなくてごめんね」とメモを残して母子が衰弱死し、餓死とみられる30代女性も見つかった。都会の真ん中で誰にも知られずに息を引き取り、長期にわたって発見されることもない。特殊清掃の作業に同行すると、そんな不条理と向き合う人たちの姿があった。

## 凄惨現場 向き合い

### 最近の主な孤立死

平成24年 1月20日	札幌市白石区のマンションで40代女性2人が死亡しているのが見つかる。2人は姉妹で姉が病死した後、知的障害があった妹が自力で生活できずに凍死した
6月22日	横浜市戸塚区の団地で住人の50～60代の夫婦が死亡しているのが判明。妻が夫を介護しており、妻の病死後、夫が餓死していた
7月11日	札幌市西区のアパートで1人暮らしの50代の男性がミイラ化して死亡しているのが見つかる。男性は経済的に困窮しており、財布の中は旧百円札だけだった
8月7日	東京都多摩市の都営住宅で女性2人の遺体が見つかる。2人は母娘で娘が寝たきりの母を介護していた。持病のあった娘が先に亡くなり、母親がその後病死した
25年 5月24日	大阪市北区のマンションでミイラ化した状態で死亡していた母子の遺体が見つかる。死後数カ月が経過しており、電気が止められていたほか、食べ物もなかった
11月18日	大阪市東淀川区の団地で30代の女性が餓死しているのが見つかった。部屋には食べ物がなく、女性は家賃も滞納していた



社内に設けた神棚に手を合わせるスタッフら。現場へ行く前の日課だという。大阪市天王寺区

昨年11月下旬の早朝。「S CS 特殊清掃・ケアサービス」(大阪市天王寺区)のスタッフは社内にある神棚に手を合わせ、静かに目を閉じた。これから作業に向かうのだ。現場は大阪府内の賃貸マンション。この1室で数日前、身寄りのない高齢女性が死亡しているのが見つかった。おり、オーナーの依頼で同室の原状回復を図るといふ。マンションに到着し、部屋のあるフロアに足を踏み入れると、まだ廊下なのに強い臭気が漂ってきた。玄関前に立ち、手を合わせて深々と一礼

する。入室すると、手袋、ゴーグル、マスクを装着。フード付きの白い防護服を身につけた。亡くなった人がどんな病気に罹患していたか分からないケースが多く、感染症対策のためだ。女性の遺体が見つかったのは浴室。室内に殺菌・消毒薬や殺虫剤を散布してから、遺体があった浴槽の清掃にかかっていたが、つかっていた水は残っていた。そのまま排水することはできず、電動ポンプでバケツにくみ上げて取り出した。

浴槽が空になると、特殊な薬剤を使って洗浄し、磨き上げる。黒ずんでいた浴槽は見違えるように白さを取り戻したが、さらにその上から薬剤を散布するなど、作業は続けられた。一方、リビングは古新聞が散乱し、カレンダーは10年前のものだった。テーブルには大量の塗り薬があり、傍らには、ずっと読み続けていたのだろうが、手紙の束が置いてあった。特殊清掃では遺品の整理も行いが、今回は女性の遺族らを探している最中であり、こうした品々には手を触れず、部屋を後にした。

「現場に行けば行くほど命のありがたみを感じる」。同社の30代の男性スタッフは以前トラック運転手をしていたが、東日本大震災で救援物資の搬送に携わり、「人の役に立てる仕事をしたい」と転職した。

高齢者だけでなく、自分と同世代が孤立死した部屋を担当したことも少なくない。そして現場はいつも、凄惨だ。「長い時間が経過した遺体は変わり果ててしまい、最期の別れも十分にできなくなってしまう。手遅れになる前に、親族や友人らは存在に気付いてあげてほしい」